

< 小学校特別活動部会 >

I 研究主題

「評価を生かした個に応じた指導のあり方」

II 研究の概要

特別活動の目標を達成するためには、児童の活動をその目標に照らし合わせ、実現状況を評価し、的確に指導をすることによって児童一人一人に確かな学力を身に付けさせることが必要である。

本年度は、特別活動において育てたい力を明らかにし、「指導と評価の一体化」をさらに進めて、学級活動(1)における評価を生かした個に応じた指導の方法を研究してきた。

特別活動で育てたい力(確かな学力)は、特別活動の時間だけですべてを身に付けるものではなく、日常の活動や教科学習などにおいて育てられた力が基となり、特別活動で生きる力として発揮されるものである。そこで、学級活動(1)の指導だけに限らず、各教科や学級経営、日常での指導にまで広げ多面的に研究していくこととした。

III 研究の内容

1 学級活動(1)で育てたい力(確かな学力)

平成15年10月の中央教育審議会で、児童の「生きる力」として「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」が提示された。その上で、「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の育成のための取組みの必要性が述べられた。「確かな学力」として、「判断力」「表現力」「問題解決能力」「学ぶ意欲」「知識・技能」「学び方」「課題発見能力」「思考力」が示された。

特別活動の目標は、「望ましい集団活動の展開」「心身の調和のとれた発達」「個性の発見と理解」「社会性の育成」「自主的、実践的な態度の育成」にある。学級活動(1)では、話し合い活動などを通して学級内の諸問題の解決を自主的に行い、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てることをねらっている。

そこで、学級活動(1)で育てたい力を、授業者が日ごろの実践を通して育てたい力として取り組んでいる内容や学級活動の目標を分析し、中央教育審議会ですされた確かな学力を勘案して以下の7点を導いた。

学級活動(1)で育てたい力

- ① 向上を目指して課題を見付ける(自らの学級生活を充実させるためにその課題に気付く。)
- ② 自分の考えをもつ・表現する(自分の考えをもって話し合い活動に参加し、進んで発表する。)
- ③ 役割を遂行する(一人一人が学級における役割を担い、果たす。)
- ④ 話し合いを深める技術をもつ(話し合いを充実させるために一人一人が話し合いの技術を身に付ける。)
- ⑤ 集団の一員としての自覚をもつ(自分が学級を構成する一人として所属感や連帯感をもつ。)
- ⑥ 実践する(集団で決定したことを実践し、実現する。)
- ⑦ 自主的に進める(自分たちの課題を自らの力で解決する。)

2 自己評価カードの作成

学級活動(1)の自己評価欄は、児童自身がこの時間でどのような力を伸ばしたいかについて記録する。そのためには、学級活動(1)において育てたい力を児童に提示しておく必要がある。それらの中から、今回の学級活動(1)で自分が高めたいと思う項目を児童自身が選び、評価カードに記入する。この際、教師が意図的に児童全員に同じ項目を一つ与え、学級全員の児童に共通して育てるものを高めることも考えられる。今まで、学級活動(1)では学級集団を高める点にかかわって自己評価する事が多かったが、今回自分自身が育つ力にも焦点を当てようと考えた。児童はこのような振り返りの活動を通して、自分の資質や能力を見つめ直す契機となり、その後の活動の充実につながると考える。

(1) 自己評価カード活用の実例（第6学年を例として）

そのときのねらいや児童の実態にあわせてこの中から評価項目を選び出し、より適切な評価カードを作る。

	自己評価観点の文例（高学年）
つ・自分の考えをも 表現する	1. 自分の考えをもって話し合いに参加する。 2. 話し合いの約束を守る。 3. 自分の考えを進んで発表する。 4. 自分の考えの理由を説明する。 5. わからないことは質問する。 6. 提案理由に沿った発言をする。
(司会グループ) 役割を遂行する	1. 自分たちで事前に役割を分担する。 2. (司会) ・出された意見を整理したりまとめたりしながら話し合いを進める。 ・中立な立場で進行する。 (黒板記録・ノート記録) ・話し合いの内容を整理しながら記録する。
話し合いの技術を 深める	1. 話し合いの流れに沿って発言する。 2. 友達の意見も参考にしながら、自分の考えをまとめる。 3. これまでの経験を生かして発言する。 4. 実践への見通しをもって発言する。 5. 実践に向けてよりよいアイデアを出す。
集団の一員として の自覚をもつ	1. よりよい学級にしようとしながら話し合う。 2. 友達のことでも考えて発言する。 3. 自分や友達の意見を大切にしながら話し合う。 4. みんなが納得できる解決案を考える。
※ 向上を目指して課題を見つける（記述式）	
※ 実践する	（記述式）

議題 「1年生と一緒に遊ぼう」

ねらい 自分の意見をしっかり出し合い
楽しい計画を立てる。

◎自己評価の観点を教師が選択する例

このクラスでは、みんなのことを考えながらも、まずは自分の考えをしっかりと出し合って話し合えるようになって欲しい。だから今日は、「自分の考えをもつ・表現する」から評価項目を与えよう。



今日の活動を			
振り返ってみよう	よくできた		もう少し
自分の考えを進んで発表する			
分からないことは質問する			
提案理由に沿った発言をする			

◎自己評価の観点の一部を児童が選択する例

ぼくは今日の話し合いでは、
これを選ぼう！



そうね、〇〇さんは、
その目標がいいわね！

今日の活動を			
振り返ってみよう	よくできた		もう少し
提案理由に沿った発言をする			
友達のことも考えて発言する			
次の話し合いをよりよくするための改善点は何か	<input type="text"/>		

児童の自己評価は、評価資料として教師側が指導するときの観点と考え、児童一人一人をしっかりと見とり、終末で適切な助言をすることが重要である。

(2) 期待する児童の姿と自己評価の観点

	期待する具体的な姿	自己評価観点の文例（下学年）	自己評価観点の文例（上学年）
向上を目指して 課題を見付ける	1. 学級の諸問題に関心をもつ。	1. (記述式による評価)	1. (記述式による評価)
	2. 学級生活をよりよくしようという意識をもち続ける。	2. (記述式による評価)	2. (記述式による評価)
	3. 学級にふさわしい議題を選ぶ。	3. (記述式による評価)	3. (記述式による評価)
	4. 活動を振り返り、新たな課題を見付ける。	4. (記述式による評価)	4. (記述式による評価)

	期待する具体的な姿	自己評価観点の文例（下学年）	自己評価観点の文例（上学年）
自主的	1. 自分たちで課題を解決する。	1. 自分たちで話し合う。	1. 自分たちで課題を解決する。

	期待する具体的な姿	自己評価観点の文例（下学年）	自己評価観点の文例（上学年）
自分の考えをもつ・表現する	1. 自分の考えをもって参加する。	1. 考えながら話し合いをする。	1. 自分の考えをもって話し合いに参加する。
	2. 話し合いの約束を守る。	2. 話し合いの約束を守る。	2. 話し合いの約束を守る。
	3. 自分の考えを進んで発表する。	3. 思ったことを進んで発表する。	3. 自分の考えを進んで発表する。
	4. 根拠を明らかにして説明する。	4. 思ったことのわけを言う。	4. 自分の考えの理由を説明する。
	5. 不明な点は質問する。	5. わからないことは質問する。	5. わからないことは質問する。
	6. 提案理由を大切に発言する。	6. 提案理由（話し合いのわけ）を考えながら発言する。	6. 提案理由に沿った発言をする。
役割を遂行する (司会グループ)	1. 役割を進んで引き受ける。	1. 司会・記録を話し合って決める。	1. 事前に役割を分担する。
	2. 引き受けた役割を果たす。	2. (司会) 司会台本などによって話し合いを進める。どの意見も大切にしながら話し合いを進める。 (黒板記録・ノート記録) 友達の意見や決まったことをわかりやすく記録する。	2. (司会) 出された意見を整理したりまとめたりしながら話し合いを進める。中立な立場で進行する。 (黒板記録・ノート記録) 話し合いの内容を整理しながら記録する。
話し合いを深める技術をもつ	1. 話し合いの過程にそって発言する。	1. 今、何を話し合っているか考えて発言する。	1. 話し合いの流れに沿って発言する。
	2. 友達の見解も参考にしながら、自分の考えをまとめる。	2. 友達と相談して考える。	2. 友達の見解も参考にしながら、自分の考えをまとめる。
	3. これまでの経験を生かして発言する。	3. これまでにやったことを思い出しながら発言する。	3. これまでの経験を生かして発言する。
	4. 実践への見通しをもって発言する。	4. 実際にやるべきことを考えながら発言する。	4. 実践への見通しをもって発言する。
	5. 実現に向けてよりよいアイデアを出す。	5. もっとよくなるアイデアを出す。	5. 実現に向けてよりよいアイデアを出す。
集団の一員としての 自覚をもつ	1. よりよい学級にしようとする願いをもつ。	1. もっとよい学級にするために話し合う。	1. よりよい学級にしようとしながら話し合う。
	2. 友達の気持ちを考えて発言する。	2. 友達のことも考えて発言する。	2. 友達のことも考えて発言する。
	3. 互いの考えを大切にしようとする。	3. 友達の見解も大切にする。	3. 自分や友達の見解を大切にしながら話し合う。
	4. 協力して解決しようとする。	4. みんなで力を合わせて考える。	4. みんなが納得できる解決案を考える。

	期待する具体的な姿	自己評価観点の文例（下学年）	自己評価観点の文例（上学年）
実践する	1. 決めたことを実践しようとする。	1. (記述式による評価)	1. (記述式による評価)
	2. 決めたことがわかり、実践する。	2. (記述式による評価)	2. (記述式による評価)

自主的・実践的な態度

3 学級活動(1)における児童に育てたい力とその指導

学級活動(1)で育てたい力は、学級活動だけで指導するのではなく、各教科や学級経営の指導でも取り上げ、日常的に、効果的な指導を展開していく必要がある。

<向上を目指して課題を見付ける>

	話合いの活動での関心・意欲・態度	話合いの活動を高める思考・判断	話合いの活動に生かせる技能・表現	話合いの活動に対する知識・理解
特別活動以外 教室環境	○学級や個人の目標、学級の歴史や実践の足跡等を掲示する。 ○「議題箱」、「議題カード」を設置する。 ○「学級活動ハンドブック」、「話合いの約束」を提示する。			○「議題カード」の書き方を掲示し問題への気づきの視点を示す。
日常での指導 教科指導	○課題解決学習を設定(課題作り)する。 ○総合的な学習等での交流活動を設定する。 ○学習の積み重ねが分かる掲示をする。	○活動ごとに振り返りをし、問題点に気付かせる。 ○疑問に思ったことを「自主学习ノート」に取り組ませる。	○学習に主体的に取り組ませ、気付いたことの発表や質問、意思表示ができる技能を高める。	
学級経営	○帰りの会や行事後に振り返りを行う。 ○安心して何でも言え、自分たちで学級生活をよりよくしていこうとする学級風土作りを進める。	○朝の会や帰りの会で学級のよさや改善点について考えさせる。 ○学級や個人の目標、行事等を振り返り、生活を見直す視点を与える。	○朝の会や帰りの会で個人や係として気付いたことを発表させる。	○学級の問題はみんなで考えてよりよくしていくことの大切さを知らせる。

特別活動での指導 係活動	○朝の会、帰りの会で係からのお知らせの場を設定する。 ○係活動を振り返る場を設定する。 ○係への感謝や願いを書けるカードを用意する。	○係活動を振り返り、新たな課題を見付ける視点を与える。 ○係活動の「振り返りカード」を活用し、よさや改善点について考えさせる。 ○係発表会を開催し、活動を振り返らせる。	○気付いた課題は「議題カード」や係への「お願いカード」等に記入したり、朝の会や帰りの会で発表させたりする。	○「議題カード」や係への「お願いカード」の書き方を知らせる。
話合い活動 事前	○他のクラスの議題例を紹介する。 ○「学級会コーナー」を設置し、議題、提案理由、柱等を掲示し、話し合う内容に興味をもたせる。	○議題案の中から、よりよい議題を選定させる。 ○計画委員会を開き、柱立てや問題点を整理させる。	○気付いた議題は「議題カード」を活用するように助言する。 ○計画委員会で議題案の扱いについて話し合わせる。	○学級をよりよくするために問題に気付く大切さを知らせる。 ○自治的活動の範囲を示す。 ○「議題カード」の書き方を知らせる。 ○議題案の中から学級会で取り上げる問題を選ぶ視点を示す。
事中	○振り返りや終末の助言で議題を取り上げたよさを賞賛する。	○振り返りや終末の助言を通して自分たちのよさや課題について考えさせる。	○「振り返りカード」等を活用させる。	○「振り返りカード」の書き方を知らせる。
事後	○実践後の振り返りや終末の助言で学級の向上に関するよさを賞賛する。	○実践後の振り返りの時間を設けよさや今後の課題について考えさせる。	○実践後によかった点や改善点を発表させたり、「振り返りカード」に記入させたりする。	○よかった点や改善点をカード化して掲示し、学級全体に広める。 ○議題名や実践、集会活動等をカード化し、「学級活動の足跡」として掲示する。
集会活動	○振り返りや終末の助言で学級の向上に関するよさを賞賛する。	○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。	○よかった点や改善点を発表させたり、「振り返りカード」に記入させたりする。	

<自分の考えをもつ・表現する>

	話合いの活動での関心・意欲・態度	話合いの活動を高める思考・判断	話合いの活動に生かせる技能・表現	話合いの活動に対する知識・理解
特別活動以外 教室環境	○「学級会コーナー」等に議題、提案理由、柱等を提示し、議題の共有化をはかる。			
日常での指導 教科指導	○「スピーチカード」「学習会カード」等を活用し、自分の考えをはっきりさせる。	○「スピーチカード」「活動カード」新聞づくりのコメント等を通して自分の考えを整理させる。 ○意見交換や相談タイムを設ける。 ○ノートに自分の考えを書かせてから発表させる。	○スピーチ、新聞づくり等のコメントを書かせる。 ○「聞く話すカード」、「発表メモ」等を通して、自分の考えを発表させる。 ○相互指名で答えさせる。 ○一人一人が発表する場を多くもたせる。	
学級経営			○「一言スピーチコーナー」を設ける。 ○新聞記事の紹介及び感想を発表させる。 ○日直の時、全体を聞き手として意識した話し方、司会進行の仕方を指導する。 ○既習の知識や経験・過去の実践を生かして学習させる。	

特別活動での指導 係活動	○係内の意見交換の時間を保障する。 ○「帰りの会」等で係からのお知らせ等を発表させる。			
話合い活動 事前	○「学級会コーナー」等で、議題を事前に知らせる。 ○「学級会カード」を配って、自分の考えをもたせる。	○「学級会カード」を事前に配布することによって、自分の考えをはっきりさせる。 ○「ブレインストーミング法」「グループの企画案」等を用いて発想を広げさせる。	○根拠を明らかにして学級のみんなが納得するような意見を出させる。 ○進行を助ける発言を促す。 ○話合いを深める言動をカード化し、活用しながら自分の思いを分かりやすく伝えるようにさせる。 ○これまでの体験を念頭において、話合いに取り組ませる。	○自分の意見をもって参加することの大切さを伝える。 ○グループ提案の場合、「企画案」の書き方を教える。

			○みんなの知らない新しいことは実際にやらせてみる。(実物提示・例示・動作化等)
事中	○考えつかないとき、友達と相談したり、質問したりする。 ○自分の考えがもてたか自己評価させる。 ○終末の助言で、自分の考えを発表できた場面を取り上げて賞賛する。	○意図的に話し合いを深める視点をもたせて振り返りをさせる。 ○提案理由や話し合いのめあてに基づき、見直しをもった話し合いをさせる。 ○今までの活動を思い出して、よかったところ、改善点を考えながら意見を出させる。	○「学級会カード」をもとに自分の考えを発表させる。 ○自分の考えをもって発表できたか自己評価させる。
事後		○相談タイムを設けたり、提案理由や「話し合いのめあて」を意識させて自分の考えをはっきりさせる。 ○「学級会カード」にメモをして、理由を明らかにさせる。 ○自分ならどうするか考えさせる。 ○自分の考えのよい点を自己評価させる。	
集会活動		○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。	

<役割を遂行する>

	話し合いの活動での関心・意欲・態度	話し合いの活動を高める思考・判断	話し合いの活動に生かせる技能・表現	話し合いの活動に対する知識・理解
特別活動 教室環境	○当番、係、クラブ、委員会、司会グループ、日直等の役割を掲示する。			○掲示等で、仕事の内容を明らかにしておく。
特別活動以外 教科指導	○グループ活動で役割分担し、充実感や満足感を得られるようにする。	○小集団で取り組む様々な課題解決の方法を考えさせる。	○小集団の話し合いで司会、記録の役割を分担し、経験させる。	○司会の進め方や発表の仕方を知らせる。
日常での指導 学級経営	○どの子にも役割があるような学級集団づくりを進める。 ○責任をもって当番活動の仕事を果たす経験を積ませる。 ○日常の助言や便り等で役割を果たしている様子を認め、励ます。	○当番等の役割に対して、どのようにすれば自分たちの生活をよいものにする方法を考えさせる	○輪番制による日直当番の司会を経験させる。	○日直当番の司会の進め方等、手順を教えたり、掲示したりする
特別活動 係活動	○朝の時間等、活動の時間を保障する。 ○「係コーナー」を設置する。 ○活動計画表を用意する。	○学級全員に役割をもたせる。 ○自分たちで見直しをもった活動計画を立てさせる。 ○活動を振り返りながら進めさせる。	○活動計画に沿って進めさせる。 ○「学級会コーナー」を活用させる。	○係の仕事の内容を明らかにする。 ○活動計画表の使い方を知らせる。
話し合い 事前	○「議題箱」、「活動計画カード」、「学級会コーナー」等を用意する。	○計画委員会の話し合いで、今までの経験を生かして計画や役割等を考えさせる。	○司会グループの役割を分担して、話し合いの計画を立て、会場等の準備を進めさせる。 ○「議題箱」や「学級会コーナー」、「学級会カード」等を活用させる。	○司会グループの仕事や役割について明らかにする。 ○話し合いでの司会グループでない人の役割について明らかにする。 ○話し合いの進め方を明らかにする
話し合い 事中	○終末の助言で、司会グループの頑張りを賞賛する。	○解決の困難な場面や振り返りでよりよい活動について考えさせる。	○「学級会カード」や「司会メモ」等を活用させる。	
話し合い 事後				○学級会のよかったところをカードに書いて掲示する。
集会活動	○全員が意識できるように役割分担を掲示する。 ○集会の終わりに役割を果たしたことを認め、励ます。	○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。	○役割ごとの進行状況等、声をかける。	

<話し合いを深める技術をもつ>

	話し合いの活動での関心・意欲・態度	話し合いの活動を高める思考・判断	話し合いの活動に生かせる技能・表現	話し合いの活動に対する知識・理解
特別活動 教室環境	○「学級会コーナー」を作る。 ○「学級の年表」等を掲示する。			○「話型」「声のものさし」「話し方」「聞き方」等を掲示する。
特別活動以外 教科指導	○グループでの話し合い、討論会、発表会、ディベート等の活動を取り入れ、話し合いの楽しさを味わわせる。	○様々な表現方法の中から効果的なものを選択させる。 ○根拠を明らかにして自分の考えを発表させる。 ○「ブレイクストーミング法」を用い、発想を広げさせる。	○発表の約束にしたがって発言させる。 ○相手を納得させる、言葉を換える等話し方の工夫をさせる。 ○小さな事でも気づいたことはメモをさせる。 ○相互指名で答えさせる。	
日常での指導 学級経営	○「一言スピーチコーナー」を設ける。	○事前にスピーチのテーマを与え、考えをまとめさせる。	○自分の考えが相手に分かるように資料等を使って説明させる。 ○新聞記事の紹介及び感想を発表させる。 ○日直の話し方、司会進行の仕方を指導する。	○話の聞き方や発言の約束を示す。
特別活動 係活動	○係コーナーを設置する。 ○必要に応じて話し合いの時間を提供する。 ○朝の会・帰りの会での連絡を工夫させる。	○工夫した活動カードを認め励ます。	○参考になる活動をしている係の情報伝える。	○工夫した係活動の方法や内容をを紹介する。

指導	話し前	○「学級会コーナー」を活用させる。 (議題・提案理由・めあて・柱)	○必要に応じて「学級会カード」を配布し、自分の考えをまとめさせる。 ○計画委員会で提案理由や柱立てを検討させる。	○司会指導でシミュレーションを行い話し合いの流れを予測させる。 ○計画委員会の話し合いを生かすように助言する。	○話し合いを深める言動をカード化して常時掲示する。
	事中	○終末の助言で話し合いを深められた発言を取り上げ賞賛する。	○意図的に話し合いを深める視点をもたせて振り返りをさせる。 ○提案理由や話し合いのめあてに基づき、見直しをもった話し合いをさせる。 ○今までの活動を思い出して、よかったところ・改善点を考えながら意見を出させる。	○根拠を明らかにして学級のみんなが納得するような意見を出させる。 ○進行を助ける発言を促す。 ○話し合いを深める言動をカード化し、活用しながら、自分の思いを分かりやすく伝えるようにさせる。 ○これまでの体験を念頭において、話し合いに取り組みさせる。	
	事後		○話し合いを深める言動をカード化したものを見直し、学級での定着度を判断させる。	○話し合いを深める言動カードを学級全体の宝物としてみんなに意欲させ活用させる。	○「学級会カード」をファイリングさせる。 ○終末の助言で、話し合いの中で生まれた新しい解決法等を確認させる。 ○話し合いを深める言動をカード化し掲示して学級全体に一般化させる。
	集会活動		○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。	○表現方法を工夫させたり、場の設定をしたりすることで表現力を高める。	○集会の体験を振り返り、記録に残す。

＜集団の一員としての自覚をもつ＞

	話し合いの活動での関心・意欲・態度	話し合いの活動を高める思考・判断	話し合いの活動に生かせる技能・表現	話し合いの活動に対する知識・理解
特別活動	○「学級目標」「個人目標」「学級の歌」「学級の旗」「学級の年表」を掲示する。	○学級目標を掲示して、常に意識させる。		○学級目標を理解させる。
教科指導	○道徳の時間に、集団や社会とのかわりについて指導する。 ○小集団での活動の場を通して、集団活動の経験を積ませる。	○友達との意見の相違点を見つけさせる。	○話し合いの約束を守って話し合わせる。	○基本的な聞き方・話し方の約束をつくる。
学級経営	○一人一人が大切な存在であり、少数意見も尊重される支持的風土をつくる。 ○「学級のめあて」をみんなで作る。 ○「班日記」、「学級通信」等で集団を意識させる。 ○朝の会、帰りの会で、互いのよさを認め合わせる。	○学級目標や個人のめあてを振り返る時間を設ける。 ○「班日記」、「日直日誌」等を書き、学級の様子をつかみ、改善点を考えさせる。 ○学級目標を具現化するための活動を考えさせる。	○受容的な態度で話を聞くようにさせる。	○一人一人が学級のかけがえのない一員であることを意識させる。 ○個人の気付きを全体で共有し解決するよさを理解させる。
特別活動	○協力して活動している過程を認め、励ます。	○活動の振り返りを行い、改善させる。	○協力して係の組織を作り、計画を立てさせる。	○学級の役に立っていることを知らせる。
話し前	○みんなと話し合いたいことを見付けさせる。 ○事前に友達の見聞を知らせる。	○提案理由をもとに話し合いのめあてを考えさせる。		○学年最初に学級活動オリエンテーションの時間を設け、(1)の時間の意義や「みんなが」という視点を大事にすることを伝える。
事中	○議題や提案理由を明確にし、学級のみんなのための話し合いであることを確認する。 ○終末の助言で集団の一員としての自覚が見られた発言を取り上げ、賞賛する。	○意見を出し合い、学級のみんなにとってよりよい解決方法を考えさせる。 ○「振り返りカード」に集団を振り返る視点を示す。	○友達の見聞との共通点を見付けさせる。 ○自分や友達の見聞を大切にしながら話し合わせる。	○友達の見聞をしっかり聞き、お互いに認め合い、協力し合うことの大切さを理解させる。 ○折衷案等があることを知らせる。
事後		○感想を書き、集団としてのよさや課題をつかませる。	○集団決定の方法を整理させる。	○よかったところをカードにして掲示し、学級全体に広める。
集会活動	○「実践の足跡」を残す。(写真等) ○実践を振り返り、次の実践への意欲をもたせる。	○提案理由や話し合いを生かして活動させる。 ○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。	○協力し楽しく活動させる。	○学級の全員で協力して実践することの楽しさを味わわせる。

＜実践する＞

	話し合いの活動での関心・意欲・態度	話し合いの活動を高める思考・判断	話し合いの活動に生かせる技能・表現	話し合いの活動に対する知識・理解
特別活動	○「学級の歴史」や「実践の足跡」等を掲示する。 ○カレンダー等を活用し見直しをもたせる。			
教科指導	○課題解決に意欲的に取り組む活動を設ける。 ○総合的な学習の時間等を通して様々な体験を積ませる。	○見直しをもって、学習計画を立てさせる。	○実践するのに必要な手順・方法を身につけさせる。	○各教科で、実践のための計画、話し合い、準備といった一連の流れを理解させる。
学級経営	○まずはやってみることを促す。 ○実践意欲が高まるように、子どもたちの発想や創意工夫を尊重する。 ○「学級通信」で活動の様子を知らせる。 ○活躍した場面を認め励ます。		○時間の使い方を指導する。	○結果よりもその活動の過程が大事であることを理解させる。

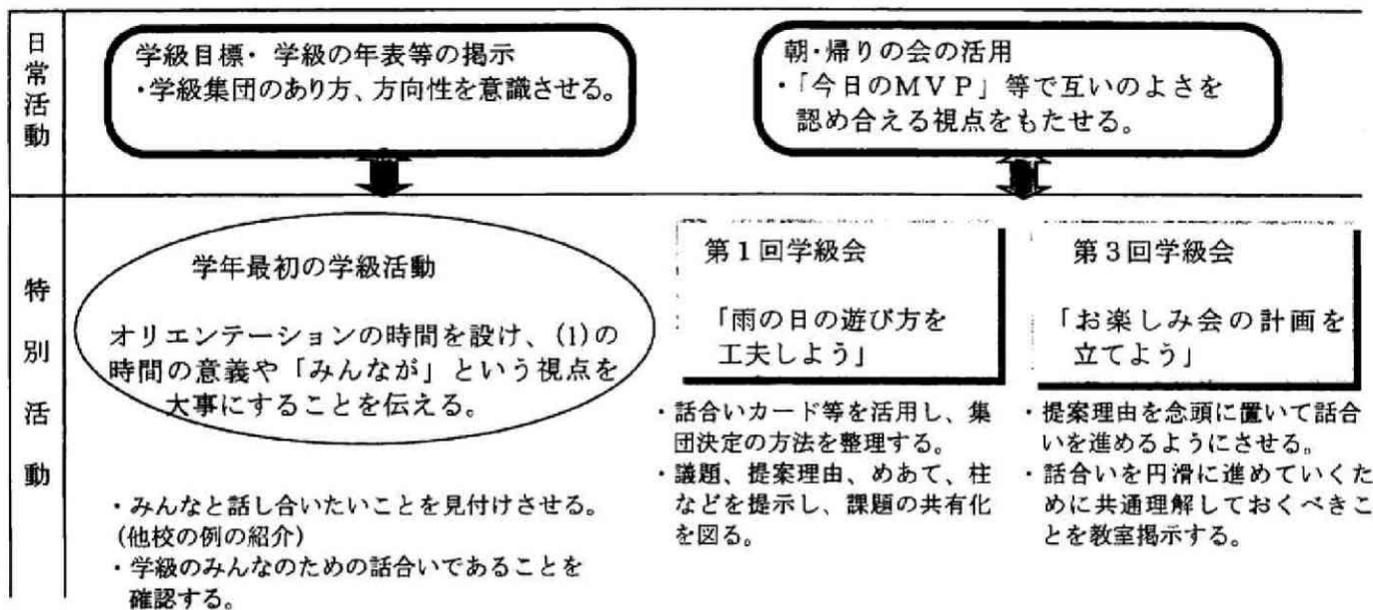
特別活動での指導	係活動	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで活動している係を認め、励ます。 ○「お願いカード」「ありがとうカード」の活用をする。 ○協力して活動する姿や工夫した点を認める。 ○時間の保障をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動計画を立て、見直しをもたせる。 ○他校の係活動の情報を伝え活動の視野を広げる。 		
	話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの参考となる資料を提示して、実践への見直しをもたせる。 ○何をするために話し合うのか、議題と提案理由をはっきりさせる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○自治的範囲を知らせる。 ○時間、場所等の条件を知らせる。
	事中	<ul style="list-style-type: none"> ○決まったことを確認し、実践に向けての意欲をもたせる。 ○子どもたちの発想や創意工夫を尊重する。 ○見直しをもち、過去の経験を生かした発言を終末の助言で取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実践を想定して話し合わせる。 ○これまで実践してきたことを経験として生かすように助言する。 	○実践に必要な役割を分担させる。	
	事後	<ul style="list-style-type: none"> ○時間と場所を保障する。 ○「学級会コーナー」に決定事項や役割を掲示する。 ○実践を振り返り、次への意欲をもたせる。 	○活動を振り返って自己評価をさせる。	○役割ごとに実践までの計画を立てさせる。	
集会活動	<ul style="list-style-type: none"> ○実践の足跡を残す。(写真等) ○実践を振り返り、次への意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よかったこと、次回への課題等個々の気付きを振り返る。 ○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。 	○役割分担をし、協力して取り組ませる。	○実践に生かせる言動をカード化して掲示する。	

<自主的に進める>

	話し合いの活動での関心・意欲・態度	話し合いの活動を高める思考・判断	話し合いの活動に生かせる技能・表現	話し合いの活動に対する知識・理解
特別活動以外	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで活動させるための時間や場所や用具を提供する。(マジック・画用紙等が自由に使えるような環境づくり) 		○自分たちで考え、工夫した教室環境を作らせる。	
日常での指導	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学習活動の体験を多くする。 ○進んで発表する意欲をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○見直しをもった活動の計画を立てさせる。 ○学習問題について自分の考えた方法で解決させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を自分で立てさせる。 ○学習内容に応じて、様々な形で意思表示させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳、総合的な学習、各教科で自主的に学習することの大切さを教える。 ○意思表示の大切さを教える。
学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ○何でも話し合える雰囲気を作る。 ○子どもたちの役割をはっきり示す。 ○「学級通信」、保護者会、朝の会、帰りの会等で自主的な活動を認め、励ます。 ○自分の学級に愛着をもち、よりよくしていこうとする前向きな気持ちをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の会、帰りの会で子どもたち自身で自分たちのことを考えさせる。 ○自分たちの学級生活楽しくするための創意・工夫を考えさせる 	○進んで活動している具体的な姿を認める。	○学校や学級のために進んで活動することの大切さを理解させる。

特別活動での指導	係活動	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の時間を保障する。 ○係活動に対する振り返りを行い、さらによくしようという意欲をもたせる。 	○係活動をさらによくしようと考えさせる。	○様々な方法で係の活動を発表させる。	○係活動のめあてを理解させる。
	話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の時間を保障する。 ○次の学級会の役割や活動の流れが分かるように「学級会コーナー」を活用させる。 ○司会グループで事前に進め方を話し合わせる。 	○事前に自分と意見の同じ友達と一緒に「発表カード」等を作成しておく。	○計画委員会で話し合いの準備をさせる。(司会グループで役割させる。)	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会は、「みんなの時間」であることを意義づける。 ○学級会の自治的範囲を教える。 ○事前の準備の大切さを体験を通して学ばせる。
	事中	<ul style="list-style-type: none"> ○自治的活動の範囲内で、活動の経過や議題の決定等について、子どもたちを見守る。 ○終末の助言で自主的に活動できた場面を取り上げ、認める。 	○「話し合いカード」を利用して流れに沿った話し合いをさせる。	○互いに助け合いながら、話し合いを進めさせる。	
	事後	○自分たちで話し合ったこと感想を書かせ、友達の気持ちを知ったり、次回へ意欲をつないだりさせる。			○活動のよかったところをカードにして掲示し、よさを学級全体に広める。
集会活動	○話し合ったことが、生きるような準備をさせる。	○振り返りの時間を設け、よさや今後の課題について考えさせる。			

IV 指導事例（「集団の一員としての自覚をもつ」ための指導事例）



	児童の活動	留意点
本時の活動	1. はじめの言葉 2. 司会グループの紹介 3. 議題の確認 4. 提案理由の確認 5. 話し合いの順序 6. めあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・議題、提案理由をしっかりと把握させる。 ・自分のめあてを確認して話し合いに入る。
	7. 話し合い (1) 何をやるか (2) そのやり方 (3) どのような準備が必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果をもとに、内容については確認をする程度にとどめる。 ・やり方に工夫を加えることによってみんなが楽しめる会となるようにする。 ・司会グループが進め方に困ったら、全体で進行方法を考えさせる。
	8. 決まったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・決まったことを確認させ、実践への意欲につなげる。
	9. 話し合いの感想と発表	<ul style="list-style-type: none"> ・司会グループからみてよかったところはどこか振り返らせる。
	10. 先生の話	<p>自分のめあてを観点ごとに自己評価させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで良かったところを具体的にほめる。 ・活動意欲につながるよう励ます。 ・次回の話し合いへの課題があれば伝える。

【評価】

- ・みんなが仲良く楽しめる活動を決めたか。
- ・学級のみみんなのことを考えて話し合いを進めたか。

聞き方・話し方ルールの徹底
・互いの意見を深める、高める、転化するルールを明確に示す。

集団での話し合い・学び合い
・個人の気づきを全体で共有し解決することにより集団のよさを意識させる。

第5回学級会

「〇小祭りのお店を決めよう」

- ・友達の意見との共通点を見つけさせる。
- ・意見を出し合いみんなにとってよりよい解決方法を考えさせる。

第7回学級会

「〇〇くんの歓迎会をしよう」

- ・学級の全員で協力して実践することの楽しさを味わえるようにする。
- ・友達の楽しむ顔を見て喜ぶ関係づくりをする。

第8回学級会

「スポーツ大会の内容を決めよう」

- ・提案理由を意識して話し合いに参加させる。
- ・ルールの工夫を図るなかで誰にとっても楽しい会となるように工夫させる。

第9回学級会

「お楽しみ会の計画を立てよう」(本時)
【ねらい】

- ・みんなが仲良く楽しめる活動を決める。
- ・学級のみんなのことを考えて話し合いを進める。

検証の観点(☆)

手だて(*)

- ☆1. よりよい学級にしようとする願いをもつ。
* 事前に学級会カードの「自分のめあて」欄にめあてを記入しておく。
- ☆3. 互いの考えを大切にしようとする。
* アンケート以外にも新たな考えがあるか、全体に確認することを忘れないようにする。
- ☆2. 友達の気持ちを考えて発言する。
* 反対意見を言うときは聞き手の気持ちを考えるようにさせる。
* 話の聞き方が散漫なときはルールを思い出すよう助言する。
- ☆4. 協力して解決しようとする。
* みんなが納得できる解決案はないか声をかける。
- ☆1. よりよい学級にしようとする願いをもつ。
* 提案理由やめあてを意識して話し合いを振り返らせる。
→ 自己評価カードの活用
- ☆4. 協力して解決しようとする。
* 互いの考えを尊重した場面や意見があった場合は、終末に認め励ます。

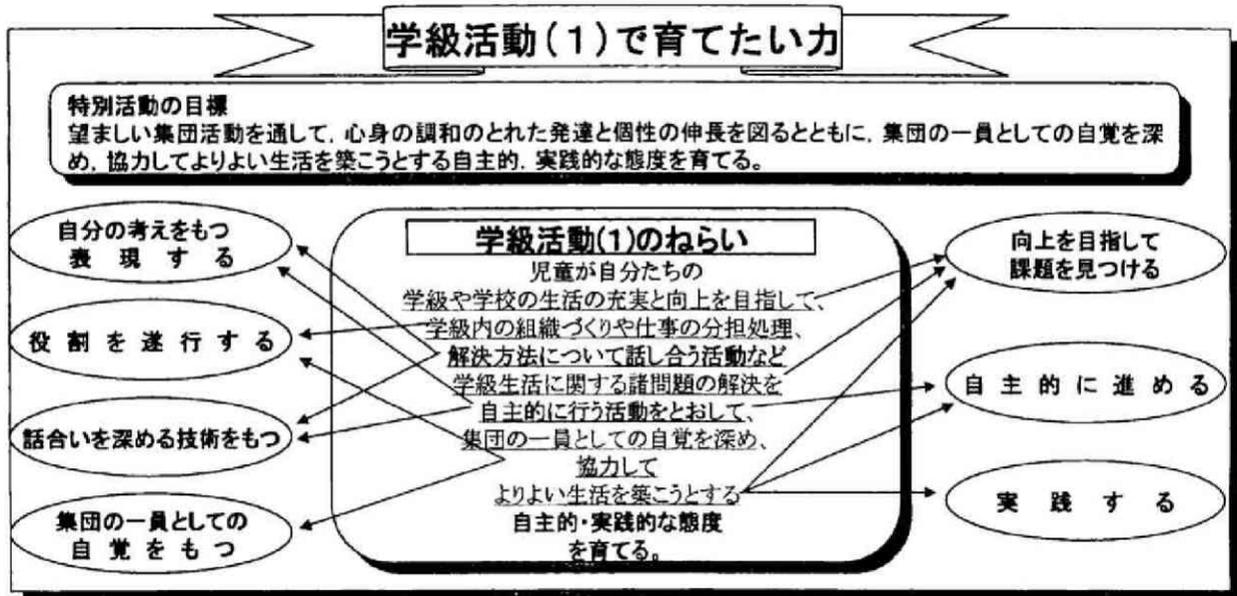
到達させるための指導の方法

関心 意欲 態度	思考 判断	技能 表現	知識 理解
《☆1》 議題、提案理由を 掲示する	提案理由 を意識し て話し合 わせる	前もって 提案理由 を知らせ る	議題、提案理由を 確認する
《☆2》 基本的な 話し合い の約束を 提示する	相手を意 識した話 合いの大 切さを考 えさせる	基本的な 話し合いの 方法を教 える	基本的な 話し合い の約束を 教える
《☆3》 学級の みんなの ための話 合いであ ることを 確認する	いろいろ な方法に ついて考 えさせる	友達の意 見との共通 点などを 見付けさ せる	互いを 認め合う 大切さに ついて理 解させる
《☆4》 決めるた めに話し 合っている ことを意 識させる	みんなが 納得する 解決案を 考えさせ る	まとめる、 順番を付 ける等、 決定の仕 方を教え る	みんな で話し合 い実行す ることの 楽しさを 伝える

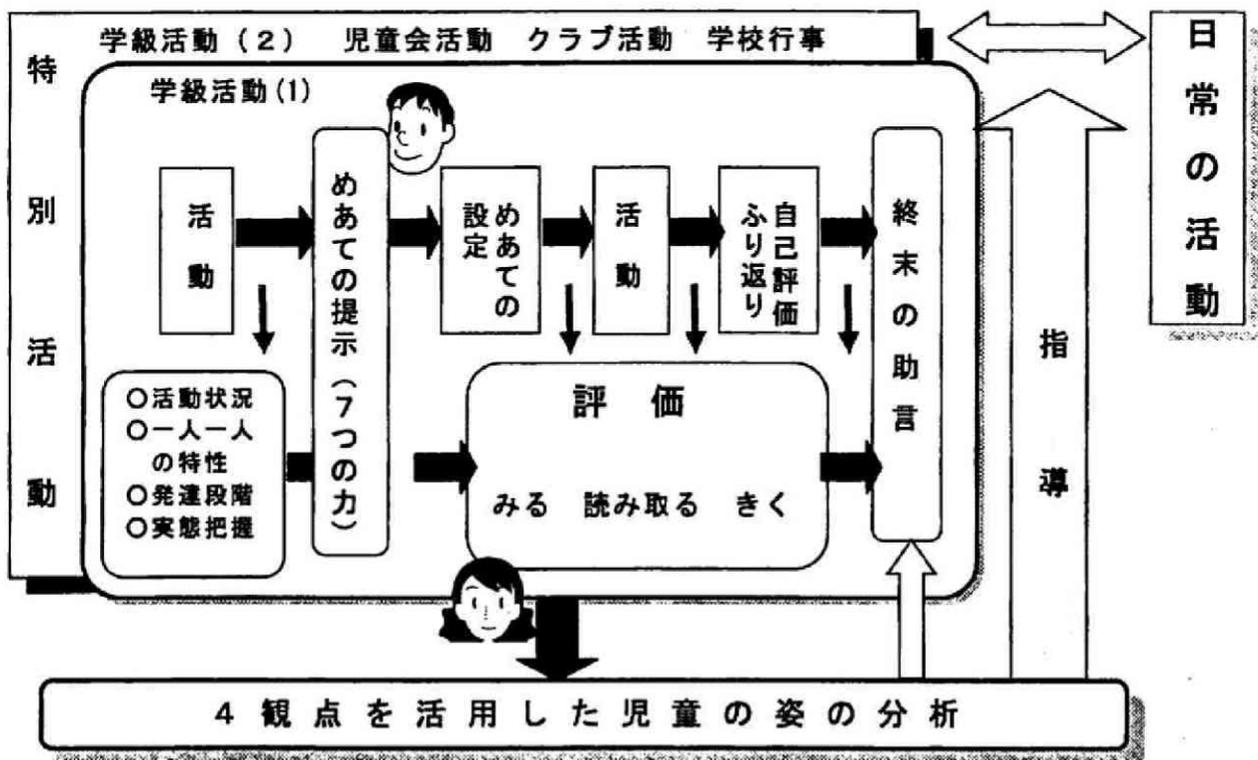
【考察】・教師が「学級活動(1)において期待する児童の姿」を、話し合いのめあてとして児童に提示したことにより、児童自身が高めたいと考える力を明確にすることができた。学級集団の形成の過程においては、目指すべき学級集団像を意図的に絞り込みその中から選択させていくことで、集団として高まると同時に、個に応じた指導の充実を図ることができた。
・終末の助言では自己評価観点に基づいた助言が中心となるが、誰が、なぜ、どんなめあてをもったのかという分析も加えて、事後の指導にも生かしていくことが大切である。

V 研究のまとめ

1 学級活動(1)で育てたい力



2 指導と評価の一体化



今回、学級活動(1)のねらいなどから導いた「育てたい力」を上段の図の7つに設定した。これらをはぐくむためには、学級活動の指導に加えて意図的に日常の活動や教科学習、学級経営における指導などからも行うことが重要である。

また、これらの力を高めるにあたり、学級活動(1)の話し合いの時間には、児童に7つの観点をより具体的なめあてとしてもたせることが大切である。

児童の活動状況や発達段階を考慮し、育てたい力としての「自己評価の観点の文例」から、教師が選択し児童に提示する。そして、毎時間、児童自身に自分のめあてとして選択させ、活動に取り組むようにさせる。振り返りの時間には、「自己評価カード」を活用し活動を見つめ直し、次への意欲を高めることになる。

万一、期待する児童の姿が表出されない場合、4つの評価規準に基づき児童の活動を分析し、適切な指導をしていく。